楽劇「トリスタンとイゾルデ」

根室市外三郡医師会
町立別海病院
山内　修

この楽劇はR・ワーグナーが作曲したもので、３幕構成の約４時間にわたる長大な物語です。

帆船の中で老国王の妃となるイゾルデが、以前から愛していたトリスタンと一緒に死のうと盃に毒薬を入れるも、毒薬は侍女により媚薬にすり替えられていたのです。それにより激しく愛するようになった二人のことを、夫になった老国王に知られ、家臣の剣によりトリスタンは重症を負います。イゾルデが到着した時にトリスタンの死。イゾルデも**『愛の死』**を歌い、事切れるのです。初演は1865年。

以下、楽劇を歌劇の一種として書いていきます。

①映像での私のお気に入り版

これまで観てきた映像の中で２点紹介します。

ｉ）Ｇ・ジョーンズ（Ｓ）、Ｊ・コート指揮／NHKホール1993年

ii）Ｎ・ステンメ（Ｓ）、Ｊ・ビエロフラーヴェク指揮／グラインドボーン歌劇場2007年

ジョーンズには楽劇「ニーベルングの指環」でも素晴しい映像あり。ステンメは2000年以降、最高のワーグナー・ソプラノの１人と思っています。

②中野京子著　角川文庫

著書「大人のための『怖いクラシック』オペラ編」のはじめにで、この楽劇のことを書いています。「せめて一度くらいはオペラを観たいと『トリスタンとイゾルデ』を選んでしまい、数万円も払って死ぬほどの退屈と眠気と闘う……」

そうなのです。この楽劇はオペラ上級者向けで、初心者は避けた方がいいようです。

③歌劇「愛の妙薬」1832年初演

ドニゼッティが作曲した喜劇的なオペラです。冒頭で「トリスタンとイゾルデの物語」の話を聞いた主人公が、イカサマ薬売りからイゾルデが飲んだ媚薬（ただのワイン）を買って飲みます。すると、何故か急に村の娘たちに言い寄られます。

④映画「昼下りの情事」1957年

Ａ・ヘプバーン主演のＢ・ワイルダー監督作品です。プレイボーイの大金持ち中年男と、チェロ専攻の音楽院女学生との恋の駆け引き。探偵の父の資料を盗み見て、その情報を利用して大金持ちを翻弄していきます。映画の65分ころにオペラ会場の２階客席に居て、その時「トリスタンとイゾルデ」の**『前奏曲』**が奏でられていきます。

⑤映画「トリスタンとイゾルデ」2006年

この映画には媚薬は出てきません。製作総指揮にＲ・スコットの名前があり、彼の監督映画「グラディエーター」張りの戦闘場面が見ものです。

⑥映画「憂國」1966年

三島由紀夫の自主制作映画で、私はこのDVDを10年前に旭川医科大学の下にあるブックオフで購入しました。観てビックリです。**能舞台**様セットに登場人物２人だけ、全編が白黒画面で台詞なし、ヌードになり愛の交歓、その後に軍服を着ての割腹自殺、それを追い妻の自刃。これを４月15日と16日の２日間で撮ったのも驚きです。

1965年ツール国際短編映画祭でグランプリの次点となり、翌年に全国各地で上映されました（成人映画指定）。1970年11月25日に三島氏が自衛隊市ヶ谷駐屯地で割腹自殺後、遺族の希望で上映が禁止され、上映フィルムは回収されて全て焼却処分。ネガ原版だけは三島夫人に焼却しないように依頼するも、30年以上にわたり存在未確認状態に。その原版を夫人の死後、三島邸の茶箱からほぼ完璧な状態で発見。「憂國」はDVDとして、上映から40年の時を経て蘇ることになったようです（2006）。

映画全編28分のバックに流れている音楽が、この「トリスタンとイゾルデ」の**『前奏曲』**と**『愛の死』**です。これは映像に見事に嵌っていて、２人の台詞または慟哭のようにも聞こえてきます。

⑦演奏会形式のBD：Ｌ・バーンスタイン指揮

1981年にバーンスタインが、バイエルン放送交響楽団と３つの幕を３回に分けて演奏（１月・４月・11月）。これをレコード用とテレビ放送用に収録。映像はバイエルン放送でのみ放映されたのですが、それをバーンスタイン生誕100周年記念としてBD化したものです（2018）。何と、歌手たちの歌うステージ床が**能舞台**のような形なのです!!

バーンスタインは1970年８月に来日した際、帝国ホテルで三島氏に「憂國」の鑑賞依頼をしたようです。後日、三島氏は東宝試写室に「憂國」をセッティング。それを観た衝撃的な記憶が、まさにこのステージ床の演出に繋がったと思っています。